

平成 15 年 11 月 17 日

各位

社団法人 東京銀行協会
全国銀行データ通信センター

「第 5 次全国銀行データ通信システムの稼働」について

第 5 次全国銀行データ通信システムが、平成 15 年 11 月 17 日(月)から稼働いたしました。

全国銀行データ通信システム(「全銀システム」)は、内国為替業務を営む金融機関をオンラインで接続し、金融機関相互間における為替通知の授受および資金決済額の算出をコンピュータシステムによって行う世界にも例をみない一大ネットワークシステムとして、昭和 48 年 4 月に発足して以来、これまで 30 年間にわたり金融機関の内国為替業務の発展に貢献するとともに、金融機関相互間の集中決済システムに関して先導的役割を果たしてきております。

全銀システムは、発足後、取扱データ量の増加および加盟金融機関数の増加等に対応するため、第 2 次、第 3 次、第 4 次とシステムのレベルアップを行ってきましたが、平成 7 年から稼働している現在の第 4 次全銀システムのシステムライフが平成 15 年 11 月に到来するため、平成 11 年度から第 5 次全銀システムの検討に着手し、5 年にわたる検討と試験を経て、このたび稼働いたしました。

第 5 次全銀システムでは、処理能力のレベルアップを図るとともに、従来の東京・大阪 2 センター方式に加え、データの暗号化、情報系システムによる還元資料の電子化等、システムの安全性・信頼性の確保や情報セキュリティ対策に更に万全を期しています。また、仕向超過額管理制度等、決済リスク対策にも十分配慮したシステムとなっています。

なお、全銀システムの現在の加盟金融機関数は、1,679 行、37,246 店舗となっており、我が国の民間金融機関のほとんど全てが加盟しています。また、平成 14 年度の取扱高は、件数が 12 億 5,000 万件(1 日平均 510 万件)、金額が 2,193 兆円(1 日平均 8 兆 9 千億円)となっています。

以 上